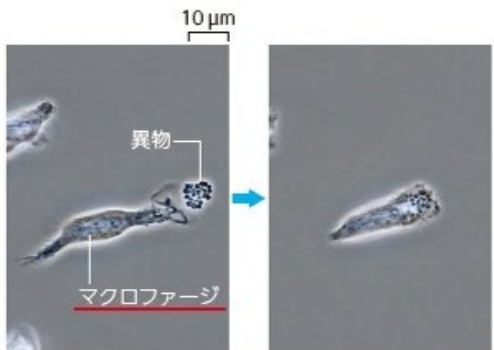
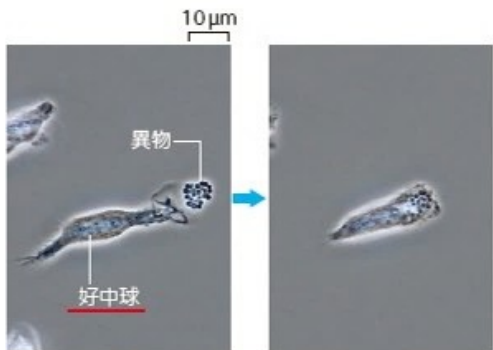
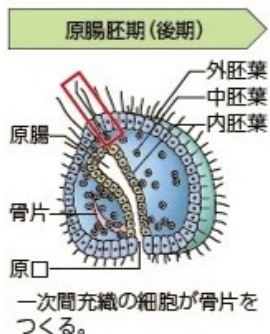
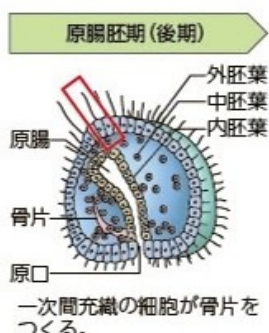


番号	訂正箇所		原 文	訂 正 文
	ページ	行		
1	31	7-8	<p>がある。ある遺伝子座に存在し得る遺伝子として互いに異なるものが複数あるとき、これらを対立遺伝子^{たいりついでんし}という。同じ遺伝子を2つもつ個体をホモ接合体^{せつごうたい}、異なる遺伝子をもつ個体をヘテロ接合体^{せつごうたい}という。</p>	<p>がある。ある遺伝子座に存在し得る遺伝子として互いに異なるものが複数あるとき、これらを対立遺伝子^{たいりついでんし}という。同じ対立遺伝子を2つもつ個体をホモ接合体^{せつごうたい}、異なる対立遺伝子をもつ個体をヘテロ接合体^{せつごうたい}という。</p>
2	94	図 a	 <p>▲図a マクロファージによる食作用のようす</p>	 <p>▲図a 好中球による食作用のようす</p>
3	206	図 7		

番号	訂正箇所		原 文	訂 正 文
	ページ	行		
1	140	右	<p>いる。F₁で直接ATP合成活性を担^{にな}っているサブユニットは、頭部に3つある<u>α</u>である。各<u>α</u>サブユニットは、F₀の回転体が1回転する間に1分子のATPを合成する。したがって、$n/3$個のH⁺の輸送により、ATPが1分子つくられることになる。</p>	<p>いる。F₁で直接ATP合成活性を担^{にな}っているサブユニットは、頭部に3つある<u>β</u>である。各<u>β</u>サブユニットは、F₀の回転体が1回転する間に1分子のATPを合成する。したがって、$n/3$個のH⁺の輸送により、ATPが1分子つくられることになる。</p>